

88年度フランスルイ・デリュック賞
88年度モントリオール世界映画祭グランプリ



ロマンチックに本を読むことは罪ですか!?

読書する女

LA LECTRICE

ミュウ・ミュウ・マリア・カザレス◆パトリック・ジエネ(88年度フランス・セザール賞助演男優賞)◆クリスチャン・リュッシュ◆シルビー・ラポルト
監督ミシェル・ドビル◆製作・脚本ロザリンド・ドビル/ミシェル・ドビル◆撮影ドミニク・ル・リゴルー◆音楽L・V・ペートーベン(フィリップスレコード)◆衣裳セシル・バルム
原作レイモン・ジャン「読書する女」(新潮文庫版)、「ペラ・日の幻想とその他の物語」より◆カラー作品◆フランス映画◆製作A・A・A・プロダクション・T・S・F・プロダクション・シネ5◆配給:アルパトロス・フィルム★

読書する女

LA LECTRICE

こんな女性になりたい それが「読書する女」

ナチュラルに、女らしく、そして可愛いらしく、こころのなかにわきおこる愛にまかせて、毎日楽しく生きていけたら——/ 男性に必要以上に媚びたり、声高に自立したいという時代はもうおしまい。肌で感じること、自然体であることを何よりも大切にしていきたい。そんな新しい時代の女性映画が誕生しました。タイトルは「読書する女」。ここに登場するヒロインは、さまざまな家を訪問しては、みんなに本を読んでみせたいという風変わった職業の女性です。彼女がモーパッサン、デュラス、マルキ・ド・サド、トルストイといった文豪の作品を、読む相手の心にしみこむように朗読していくと、不思議です、そこにちょっとロマンチックでコミカルな出来事が次々と起こりはじめるのです。ときに歳下の若い男の子を挑発したり、ときにワーカーホリックの中年男性との愛の駆け引きを楽しんだり、ときにイタズラ好きの少女に振り回されたり——。彼女の毎日は冒険とスリルがいっぱい/ でもそれは彼女が自分の気持ちに正直だからにほかならないのです。

この「読書する女」は本国フランスで公開されるヤブゴ誌ほか一流女性誌、映画誌が大きくとり上げ、女性たちの熱い共感を呼んで大ヒットを記録しました。さらに88年度リュ・デリュック賞、セザール賞最優秀助演女優賞（ノミネートは9部門）を受賞。さらに第12回モントリオール世界映画祭でグランプリを手にするなど、まさに全世界の女性たちに、新しいステキな女のあり方をしめす形になったのです。

しなやかに自由に

ミュウ=ミュウの魅力がいっぱい

少女のような金髪のショートカット、くりくりとした好奇心いっぱいの大きな瞳——本を読んで歩くうちに人間のミステリアスな部分を知っていく。そんなヒロインに扮するのはフランスのトップ女優ミュウ=ミュウです。自由奔放でしなやかな個性をもつ彼女ならではの魅力が、まさにスクリーンにはねまわっているといえるでしょう。この「読書する女」は彼女のために撮られた映画でもあるわけです。人を惹きつけてやまないそのとらえどころのない個性は、彼女の天性のもの。「パルスーズ」(74)の不感症少女、「夜よ、さようなら」(79)の娼婦とスキャンダラスな役柄に特異な才能をみせてきたスターだけに、

今回のヒロイン役にも独特の透明感をただよわせた好演をみせています。

彼女をとりまく人々としてほかには、「オルフェ」の女優マリア・カザレス、個性派俳優のバトリック・シェネが出演。「めざめ」「女は夜の匂い」の名匠ミシェル・ドビルが監督にあたっています。また、全篇にわたって「テンペスト」ほかベートーベンの名曲が効果的に使われ、シーンごとにかわるミュウ=ミュウの着るファッションを新進女流デザイナー、セシル・バルムが担当して話題を呼んでいます。

ステキな本を読むことは 素敵な冒険!

コンスタンスは大の読書好きです。いま彼女は「読書する女」というタイトルの短編小説を手にしていました。この物語はコンスタンスと同じように好奇心旺盛で美しい声をもつヒロイン、マリーが“若い女性がお宅で朗読します”という広告を出すところから始まります。マリーは本を読んでほしい人のいる家をめざして、人気のない迷路のような石だたみの街角をぐんぐん歩いていきます。車イスのマザコン青年、大きなお屋敷に女中と暮らしている將軍の未亡人、大人顔負けのなまいき少女、セックスコンプレックスの中年社長、引退した老判事——。ふつうのワクからちょっぴりはみ出た、とても面白いお客さまたち。コンスタンスはヒロインのマリーとなって、ユニークで、ハートがドキッとするような冒険をくり広げていきます。マリーが本を読んであげる時、彼らがマリーに本当にしてほしかったことは何? 彼女が行く先々で、眠っていた愛が、言葉が、目を覚ましたのです——。

(スタッフ)

製作……………ロザリンド・ドビル
監督……………ミシェル・ドビル
原作「読書する女」 & 「ペラ・Bの幻想とその他の物語」
(新潮文庫版)
……………レイモン・ジャン
脚本……………ロザリンド・ドビル
……………ミシェル・ドビル
撮影……………ドミニック・リゴレー
音楽……………ルドヴィック・ワラン・ベートーベン
(サウンド・ヴァージョン・フィリップスレコード)
編集……………レイモン・ギョブ
プロダクション・デザイナー……………ティエリー・ルアルスト
衣装……………セシル・バルム

(キャスト)

コンスタンス/マリー……………ミュウ=ミュウ
ジャン/フィリップ……………クリスチャン・リュッシュ
將軍の未亡人……………マリア・カザレス
社長……………バトリック・シェネ
判事……………ピエール・デュクス
フランソワーズ……………シルビー・ラポルト
エリックの母、ジョスリーヌ……………フリジット・カティオン
エリック……………レジ・ロワイエ
ペラ……………マリアンヌ・ドニクール

フランス映画・1988年作品 / 上映時間1時間39分
アルバトロス・フィルム配給★



9月15日祝日ロードショー
特別鑑賞券1300円発売中(当日一般1600円)
●おしゃれでステキな特製ポスター付(劇場窓口のみ)

日比谷シャンテ・合飲の広場前

シャンテシネ1

03
(591)
1511

■上映時間

10:35 12:40 2:45 4:50 6:55